



第4番

熊川岩谷堂

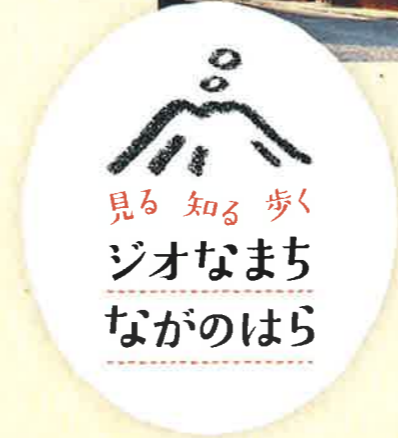
国道 146 号沿い、応桑信号の近くにある岩のほこらはなんだろうと気になっていたのですが、こちらは平成に入って再興された「熊川岩谷堂」。かつて熊川沿いの集落にあったお堂が明治の大水で流失してしまったため、集落出身の個人の方が平成 4 年、この場所に馬頭観音とはこらを再建したものです。



第1番

作道観音堂

巡礼の起点となるのは、雲林寺の境内にある「作道観音堂」です。創建 200 年以上とされ、もともとは旧 NTT 反対側の山中の崖地にあったものを雲林寺の和尚が現在地に移し替えました。作道という名前はこのあたりが交通の難所であったことから、街道を守る意味でつけられたのではないかとされています。ご本尊は聖観世音菩薩です。



小さな旅へ!

vol. 19

秋のハイキングをかねて
観音札所をめぐる

【前編】〔三原郷三十四観音札所〕

観音札所巡礼といえば、西国三十三所、秩父三十四所などが有名ですが、私たちが住む地域にも古くから続く巡礼コースがあることをご存知でしたか？

「三原郷三十四観音札所」は、長野原町(18ヶ所)、嬭恋村(8ヶ所)、草津町(1ヶ所)、中之条町六合地区(6ヶ所)にわたり、三原郷の名は、中世の頃、長野原・嬭恋周辺が三原庄と呼ばれていたことにちなんでいます。

成立についての詳しい記録はなく、長い年月の間にお寺やお堂も移転・合併されたりしていますが、昔の人にならって札所を巡れば、地域と人びとの信仰の歴史が見えてきます。

前編となる今回は、第一番雲林寺をスタートし、町内の与喜屋・応桑・小宿・羽根尾・大津などのエリアを巡ります！

長野原町内の札所はこの案内板が目印！



第5番

小宿寺観音堂

応桑から小宿に向かうつづら折りの道の途中、見晴らしのよい高台に真新しいお堂があります。この「小宿寺観音堂」は、天明の噴火で泥流に押し流され、明治になって再建。昭和 40 年代の改築を経て、新たに最近になってこの場所に移築されました。天明の噴火で被災する前は「小宿千軒」ともいわれる大きな集落だったことを今に伝えるお堂です。



第6番

穴谷観音堂

もとの「穴谷観音堂」は、やはり天明の噴火により行方がわからなくなり、資料も残されていませんが、噴火から二百年後の昭和 58 (1983) 年、常林寺の本堂下の境内に高さ 190cm もある立派な聖観音を開眼し、復活させました。巨大な岩のほこらは、長野県の小布施町から運んできたものです。



この先、第7番～14番は嬭恋村内を巡ります。(来月号で紹介します!)



第2番

萩原観音堂

バイパスを横切って進むと萩原集落の手前、土砂崩落止めのコンクリートが途切れたところに階段があり、そこが入り口です。階段を上った先に小さな観音堂があり、そのまわりに古い時代のもと思われる馬頭観音や庚申塔が静かに並んでいます。

第3番

与喜屋観音堂

熊川を渡った対岸の高台に建つ「与喜屋観音堂」。集落とまわりの山々を見渡すことができ、古い木造のお堂には集落の人々が集まる囲炉裏端もあり、いかにも村の観音堂という良い雰囲気です。お堂のまわりは、大黒天や馬頭観音、百番供養塔などたくさんのお古びた石造物にぐるりと囲まれています。





第16番
草木原観音堂

草木原の集落にあるこの観音堂は、昭和61年に再建されたものとのことで、周囲には梅や桜の植栽も美しく、地元の方により丁寧に手入れされていることがわかります。お堂の脇には、昔は集落の貴重な飲み水だったという観音池があり、春先にはゼンソウが咲いていました。



第15番
寺沢観音堂

羽根尾駅の東側、羽根尾城址への登山道入口に宗泉寺という寺があり、その横にある寂れたお堂が「寺沢観音堂」です。町誌には本尊の十一面観世音は極彩色の立派な仏像だと書いてありますが、見ることはできませんでした。お堂よりも、その前に並ぶ数十体の首なし地蔵が印象的…。



第18番
桑井矢場
観音堂跡

「桑井矢場堂」については詳しい歴史が残されていませんでしたが、平成10年、大津老人クラブによる長年の調査がまとまれ、国道からは奥まった田んぼのなかの杉林を背にした現在の場所に、石造の聖観音像が新しく開眼されました。



第17番
立石寺

立石寺というお寺は今はありませんが、琴平神社に続く石段の途中に観音堂があり、平成に入って新築されています。この数十段の石段は苔むして急なので上り下りはなかなかスリル!がらばって登れば境内には手水舎があり、またそこからは菅峰をはじめ周囲の丘陵地帯が一望できるので爽快です。



第19番
洞口堂跡

洞口集落の北端、大津用水の記念碑近くに、たくさんの石造物が無造作に寄せ集められている場所がありました。お堂は大正時代に焼失してしまったため、はっきりとした痕跡はありませんが、かなり寂れた観音像や庚申塔などがかつての札所の面影をかるうじて残っています。

この先、第20～26番は草津・穴谷をめぐり、27番から再び長野原町に戻ります。(来月号で紹介します!)



ふるさと 再発見

[19]

—文化財だより—

山の音楽堂 【北軽井沢 ミュージックホール】

毎年夏には「ミュージックホールフェスティバル」が開催されている。ミュージックホールはこの地域に音楽文化を根付かせたのである。次号は「応桑旧道」をご紹介します。



北軽井沢交差点を北へ向かうとすぐ左に、茶色い外観のレトロな建物が建っている。ここが、昭和四二年(一九六七)に日本で初めて音楽学生のための夏季合宿施設となった北軽井沢ミュージックホールである。

設立は、夏季に第三小学校(現・北軽小)などで学生に音楽を教えたいた音楽教育家である齋藤秀雄氏の「日本にも夏期合宿の練習場が欲しい」という想いから始まった。その想いに賛同した学生の保護者が土地の提供を申し出、音楽学生たちがチャリティーコンサート等で建築費用を集めた。中には齋藤氏の教え子であった小澤征爾氏らも参加していた。こうした協力により、昭和四二年の第一期工事完成を皮切りに、ミュージックホールは歴史を刻み始めたのである。

現在では、北軽井沢区民を中心としたミュージックホールサポーターズがホールの維持管理を支えており、